

読み聞かせを応援します！

子供は文字を読めるようになって、一人で本を読み、本の世界を楽しむようになるまでには、時間がかかります。読書に興味を持ってもらうには、まず大人がお話や本の楽しさを知らせることからはじめましょう。その一番の近道が読み聞かせです。

しかし、先生やボランティアの方から、何を読んでよいかわからないという声を聞くこともあります。そこで、都立多摩図書館では、読み聞かせの方法やお勧めの絵本200冊を紹介した冊子『読み聞かせABC』を作成し、皆さんの読み聞かせを応援しています。



近くの小学校の子供たちを迎えておはなし会

『読み聞かせABC』



- 『ぐりとぐら』『ひとまねこざる』『三びきのやぎのがらがらどん』など長年親しまれてきた創作絵本、昔話、知識の絵本を紹介しています。
- おはなし会のプログラムの組み方やプログラムの事例もあります。
- 328種類のテーマ索引があり、ブックトークや展示などに活用できます。
- 家庭での読み聞かせや絵本選びにも役立ちます。 ○A4判、58ページです。

入手を
ご希望の方は


- 申込みいただいた小学校に配布しております。
- 都民情報ルーム(都庁第一本庁舎3階)で頒布しています。
頒価 200円 都民情報ルーム03-5388-2276
- 都立図書館のホームページからもご覧になれます。

【内容紹介】

詳しいあらすじ

読むときのポイントや
その絵本の魅力など役立つ情報

対象年齢・読み聞かせ
にかかる時間

64	ちいさいおうち バージニア・リー・パートン 文・絵 石井桃子 訳	978-4-00-110553-7	岩波書店	1965		
			低	中	高	15分
	 <p>静かな田舎にちいさいおうちが建っていた。ちいさいおうちは移り変わる一年の景色を眺め、幸せに暮らしていたが、やがて周りに道路ができ、家がどんどん建ち始める。車や電車が走り、高架線や高いビルに囲まれ、ちいさいおうちに住む人は誰もいなくなる。そこへおうちを建てた人の子孫がやってきて、広い野原の真ん中におうちを移すことにする。新しい場所に落ち着いたちいさいおうちは、うれしそうにっこりする。</p>	<p>日本では1954年の初版以来、読み継がれた古典的絵本。ヒナギクの咲く田舎に住み、やがて高層ビルに囲まれるおうちは、生き物ではないが、表情が感じられ、子供はおうちの運命に心を寄せる。見返して、ちいさいおうちとその時代の歴史をたどるなど、隔々まで楽しめる。</p>				

読み聞かせに関するイベント

「子供が知らない言葉や物が出てくる絵本をそのまま読んで大丈夫ですか?」「騒いでしまう子にはどうしたらよいですか?」など、もっと知りたい方のために、読み聞かせ講座や絵本の展示会を開催しています。

読み聞かせに関するQ&A

都立図書館のホームページ「家庭での読書について教えてください」では、Q&Aで読み聞かせについてわかりやすく御案内しています。



絵本の展示会場でギャラリートーク

都立多摩図書館では、児童青少年向けの図書19万8千冊、雑誌900タイトルを所蔵し、乳幼児から高校生までの読書に関するサービスを行っています。子供の本や読書に関する御質問がありましたら、お気軽に御相談ください。

都立多摩図書館 児童青少年資料係 電話 042-524-6428(直通)

都立図書館ホームページ「子供の読書に関わる方のページ」 <http://www.library.metro.tokyo.jp/tabid/439/Default.aspx>